

環境こだわり農業の深化への取り組み（水稻）

滋賀県産農産物のブランド力向上や競争力強化のため「環境こだわり農業の深化」をすすめています。例えば「有機農業の取り組み」や「魚のゆりかご水田米」等があげられます。

今回は有機農業で特に課題となっている、移植～収穫までの除草対策を紹介します。

●代かきの工夫

有機栽培の水田は遅植えが基本です。水稻移植前の雑草の状況を見て、10日間隔で4回程度代かきを行い、ホタルイやヒエ等の芽を土中に埋め込んだり、水に浮かすことにより除草を行うためです。

●チェーン除草

水稻移植後4～7日程度の間隔で4回以上、長さ2mの棒にチェーンをのれん状に接続した除草機を引きずることにより、雑草を抑制することができます（写真1）。東近江地域でも有機農家が自作の除草機を活用し、作業をされています（写真1）。チェーン除草の作業時間は3時間/10aが目安ですが、この作業だけでは雑草を防ぎきれないため、手取り除草や米ぬか除草等を組み合わせて作業をされています。



写真1 チェーン除草作業

●水田除草機の活用

平成29年6月、東近江市大森町の水稲無農薬無化学肥料栽培ほ場において有機農業の栽培技術確立に向けた県域の実演会として、本田除草機の実演を行いました。このほ場では4月26日から約10日間隔で代かきを4回実施し、5月27日に「コシヒカリ」の成苗を栽植密度35株/坪で移植されました。実演日には2～3葉のノビエ、ホタルイがほ場内に発生していました。



写真2 水田除草機の作業

実演機はM社製の乗用型8条の高効率水田用除草機で、条間は回転ロータにより、株間は振動ソース（写真3）により雑草を抜き取ります。三輪のため作業当初は旋回後に進入する条間の見極めに戸惑いましたが、36aを約50分で作業できました。苗の踏み荒らしも少なく、雑草は水面に浮かび、除草効果が一目瞭然でした。また、生育が進んだ雑草（特に株間のコナギ3～4葉）は十分に除草できないこと、作業速度が速すぎると水稻の葉が切れてしまうことも確認できました。

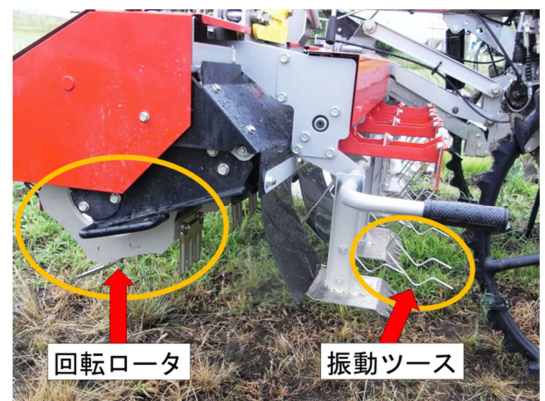


写真3 水田除草機の作業部

県はこのような除草技術を試行し、効果を確認しながら、有機栽培の技術確立と普及拡大を目指して支援します。